

どのような大人が本を読んでいるのか

OECD 国際成人力調査のオープンデータに基づく多国間調査

上田修一
ueda@keio.jp

抄録

多数の国々を対象とした調査を用いて、現代では成人のうちどのような個人属性を持つ人々が読書をしているのかを明らかにした。特定の国の読書調査の結果から得られた知見を仮説とし、2011年から2013年にかけて行われた「国際成人力調査 (PIAAC)」から得た31か国の約18万件のオープンデータを使用して確かめた。国という枠を外しても、読者の割合、性別や年代による読書、読者の傾向は一定であることが確認された。

1. はじめに

国内では子供から学生までの読書には光が当てられているが、大人の読書の実態やその変化への関心は乏しいままである¹⁾。読書に関する議論の中心は、国内ではもっぱら読書教育や子供に対する読書環境の整備である²⁾。また、海外では2014年になされた The International Reading Association の The International Literacy Association への名称変更のように読書からリテラシーへの関心の移行がみられる。

しかし、最近では、成人の読書についての危機的な状況を指摘する論者が出てきた。ニコラス・カーは、自身が長い文章を集中して読むことができなくなったと述懐するとともに、もう『戦争と平和』を読めなくなっているとある研究者が吐露した事例を紹介している³⁾。

読書に関する議論は、教育や読書振興策が中心となっているが、読書史や読者史といった分野もあり、エビデンスに基づく研究としては、読書研究と読書調査がある。実験などによって読み方の実態を明らかにしようとする読書研究に対して、読書調査では、社会調査や統計によって読書の実態を明らかにしようとしている。

米国ではピューリサーチセンターが適時、読書調査を行っており、2018年には、成人の約4分の1 (24%) は、過去1年間に、印刷版、電子版、あるいは音声版で本を読まなかったことを明らかにしている。さらに、こうした本を読

まない人々の割合は、男性が女性よりやや大きく、50歳以上で高まり、学歴との関連があることが示されている⁴⁾。

日本では、70年以上の歴史を持つ毎日新聞『読書世論調査』⁵⁾があり、これは、国内の読書状況を通時的に把握できる資料として貴重である。2018年の調査結果では、書籍を「読まない」(期間限定せず) は、52%、男女で差はほとんどなく、30歳代が他の年代にくらべて高かった。なお、1年間で読書をする人々の比率である読書率が算出されているが、この25年間で雑誌読書率は低下しているものの、書籍読書率は、ほぼ横ばいである。

成人についての読書調査の結果をレビューしているキャサリン・ロス⁶⁾は、1946年の英国で行われた読書と書籍購入に関する大規模面接調査から2017年実施のオーストラリア芸術評議会 (Australia Council for the Arts) による調査まで15種の読書調査事例を示している。これらの調査結果をみると、読者 (book readers) の割合は49%から92%、頻繁読者 (frequent readers) は12%から41%だった⁶⁾。

既存の読書調査の多くは、特定の国を対象とし、読書の目的 (仕事、学習、楽しみなど) や読書の対象 (本、雑誌、新聞など)、読むフォーマット (印刷版、電子版、音声版など) については無頓着である。そのため、多くの国々の読書状況の比較は難しい。また、同一設問の読書調査を同時に多数の国々で行うことも行い難い。

それにもかかわらず読書調査が絶えず行われているのは、モバイル機器により時間と費用を奪われ、読書は衰退しているのではないか、印刷版から電子版（あるいは音声版）への移行が進んで印刷版はなくなるのではないか、古典や教養書を読むより、楽しみのための読書が中心となっているのではないか、といった懸念が存在するためであろう。

しかし、こうした読書の変化や推移を議論する前に、読書の実態を明らかにしておくことが先決であろう。

ロスは、いくつかの読書調査の結果から大多数の人々が何かを読んでおり、少なくとも半分の人々は本を読み、約10～20%が熱心な読者であることが一貫してわかっていると述べている。さらに、女性は男性よりよく本を読み、年齢層では従来、若い人々が高齢者より本を読んでいたが、現在では高齢者のほうがよく読むようになりつつある。ヨーロッパでは、北方の国の人々は南方の人々よりも多くの本を読むといったことを指摘している⁶⁾。

そこで、(1)多数の読者の存在、(2)女性読者の優位、(3)年代別読者層の平準化、(4)北欧は南欧より読者層が厚い、などを仮説とする。

2. 方法

ここで用いるデータは、2011年から2015年にかけてOECD加盟国を中心として31か国・地域が参加し、16歳から65歳まで各国の約5,000人を対象として行った「Programme for the International Assessment of Adult Competences:PIAAC」⁷⁾（日本では「国際成人力調査」⁸⁾と呼ばれている）から得た。同調査は、OECD生徒の学習到達度調査(Programme for International Student Assessment : PISA)の成人版であり、「読解力」、「数的思考力」、「ITを活用した問題解決能力」を計測することにより、教育政策立案に役立てようとするものである。各能力の測定のための試験の得点などとともに、背景情報として、調査対象者の年齢、性別、学歴、職歴、仕事、それに仕事上の行為、仕事外の行為、問題解決に対する意識についても質問している。読書に関しては、「現在の仕事でどの程度頻繁に行いますか」の中に「本をよ

むこと[G_Q01e]と「あなたは仕事外でどの程度頻繁に行いますか」の中に「小説やノンフィクションの本をよむこと[H_Q01e]」という設問があり、いずれの質問項目も

- 01 まったくない
- 02 月に1回未満
- 03 月に1回以上、週に1回未満
- 04 少なくとも週に1回以上、毎日ではない
- 05 毎日

の5段階で回答を求めている。以下の集計では、「読まない」(01)、「読む」(02, 03, 04)、「毎日読む」(05)の三段階にまとめた。

調査は、それぞれの国の言語による面接で行われ、設問毎に選択肢を示したカードを提示して選択させた。このPIAACの調査項目は読書を仕事上と仕事外の二つに分けて読書の目的について配慮しているという利点がある。

なお、OECDのこのPIAAC調査の目的は、政策立案のために成人の問題解決能力の国際比較を行うことにあり、ここで用いる読書に関する調査結果は背景情報の一つにすぎない。

3. 結果

PIAACのサイトから入手できた31か国の177,664名の回答を用いた。なお、質問項目によって回答数は異なっている。表1に国別に、用いたデータの概要と読書に関する集計結果を示した。ここには、全く読まないという回答者数と毎日読むと答えた人々の比率を示している。

対象とした31か国では、仕事外で小説やノンフィクションの本を毎日読んでいる割合は18.2%であり、全く読まないのは27.8%である。一方、仕事で本を毎日読んでいる割合は6.8%である。なお、仕事でも仕事外でも本を読まないのは、回答者の21.5%で、毎日、仕事の本とそれ以外の本を読んでいるのは、2.8%だった。

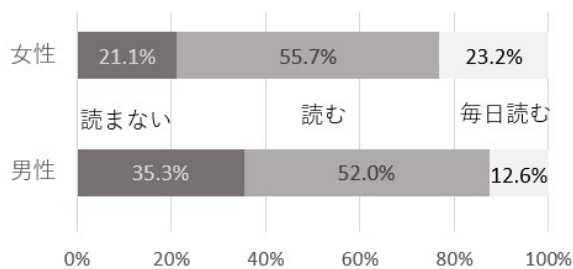
男女比であるが、対象データの中で、性別の記載がなかったのは2例だった。仕事外で小説やノンフィクションの本を読まない男性は、35.3%であるが、女性は21.1%、毎日読んでいる女性は、23.2%であるのに対し男性は12.6%である。女性が男性より小説やノンフィクションを読んでいる、男女にかなり大きな差がある。

表1 国別の調査対象と書の状況

国名	OECD 加盟	回答数	性 別	年 齢	学 歴	仕事外で小説やノンフ ィクションの本を読む			現在の仕事で本を読 む		
						不読	毎日読む	順位	不読	毎日読む	順位
						比率	比率	順位	比率	比率	順位
オーストリア	1961	5,130	○	○	○	21.3%	19.1%	15	62.6%	4.4%	26
ベルギー	1961	5,463	○	○	○	34.5%	13.5%	20	65.6%	2.4%	31
カナダ	1961	5,336	○			23.4%	27.6%	4	59.3%	8.6%	8
チリ	2010	5,212	○	○	○	51.5%	8.7%	28	67.3%	6.4%	17
キプロス	未	5,053	○	○	○	33.8%	16.1%	19	61.9%	11.1%	2
チェコ	1995	6,102	○	○	○	20.8%	19.7%	14	72.8%	5.2%	23
デンマーク	1961	7,328	○	○	○	15.1%	28.9%	3	58.3%	6.0%	21
エストニア	2010	6,055	○	○	○	34.8%	22.3%	9	74.0%	7.2%	13
フィンランド	1969	5,464	○	○	○	16.6%	16.2%	18	53.4%	5.2%	24
フランス	1961	6,993	○	○	○	25.3%	23.0%	7	71.1%	4.6%	25
ドイツ	1961	5,465	○		○	18.9%	21.7%	12	59.5%	6.0%	20
ギリシャ	1961	4,925	○	○	○	32.9%	12.9%	22	59.5%	6.5%	16
アイルランド	1961	5,983	○	○	○	21.9%	31.5%	2	58.1%	10.1%	4
イスラエル	2010	5,538	○	○	○	30.4%	21.2%	13	68.9%	6.8%	15
イタリア	1962	4,621	○	○	○	36.4%	16.2%	17	74.0%	6.1%	19
日本	1964	5,278	○	○	○	33.0%	10.0%	26	45.3%	9.1%	7
韓国	1996	6,667	○	○	○	25.6%	8.4%	29	39.1%	11.5%	1
リトアニア	2018	5,093	○	○	○	33.2%	12.6%	23	84.3%	3.0%	30
オランダ	1961	5,170	○	○	○	26.4%	16.3%	16	65.5%	3.2%	29
ニュージーランド	1973	6,177	○		○	36.5%	7.2%	30	40.6%	8.3%	10
ノルウェー	1961	5,128	○	○	○	16.8%	22.9%	8	55.3%	5.7%	22
ポーランド	1996	9,366	○	○	○	26.4%	12.0%	24	76.4%	3.8%	28
ロシア	未	3,892	○	○	○	13.9%	22.0%	11	59.6%	10.4%	3
シンガポール	未	5,468	○		○	31.7%	13.5%	21	47.7%	7.9%	11
スロバキア	2000	5,723	○	○	○	30.4%	11.3%	25	78.0%	4.1%	27
スロベニア	2010	5,331	○	○	○	34.1%	9.8%	27	44.7%	8.3%	9
スペイン	1961	6,055	○	○	○	34.8%	22.3%	9	74.0%	7.2%	13
スウェーデン	1961	4,469	○	○	○	14.3%	26.1%	6	54.7%	6.3%	18
トルコ	1961	5,277	○	○	○	58.4%	5.6%	31	58.9%	7.5%	12
英国	1961	8,892	○	○	○	18.9%	32.6%	1	54.5%	10.0%	5
米国	1961	5,010	○		○	18.9%	26.9%	5	53.7%	9.5%	6
計 平均		177,664				27.8%	18.2%		60.9%	6.8%	

注：OECD加盟国の中でハンガリー、アイスランド、ラトビア、ルクセンブルグ、メキシコ、ポルトガル、スイスは、この調査に参加していない。オーストラリアは加盟国であるが、結果を公開していない。「未」は、未加盟であるが調査を行った国である。また、一部の国は、被調査者の年齢を公開していない。「不読」は、(本を読むことは)「まったくない」、「毎日」は、「毎日」(本を読む)を表している。設問の選択肢を選んだ回答者を100%として、比率を算出している。順位は、比率の高い国を第一位とした順位である。カナダは、回答数が26,683名と多かったため1/5をランダムに抽出している。

図1 男女別の小説やノンフィクション読書状況

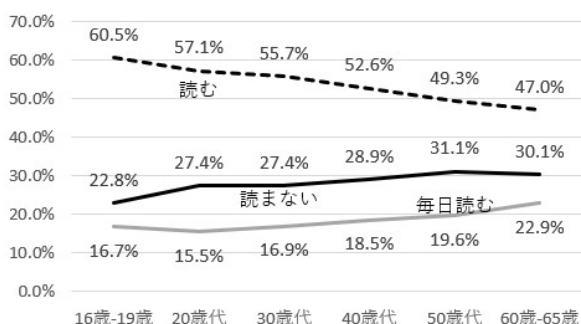


国別でも、31か国のうちニュージーランド以外は、全て、小説やノンフィクションをよく読むのは女性であるという結果であり、これは、ここにあげた国々では一般的な傾向である。

仕事上の読書では、男女の差は小さい。しかし、毎日、仕事上で本を読む割合でも女性が男性を上回っており、男性の割合が女性より多いのは、日本を含め5か国だった。

PIACC 調査では、調査対象者に生年月の記入を求めている。そのためもあり、被調査者の年齢を公開していない国が6か国ある。従って、年齢は25か国の133,102名の結果である。年齢は10歳毎に区分した。図3に小説やノンフィクションの年齢区分別の割合を示した。全体として、年齢が高まるにつれて読む人々は減り、全く読まない人々が増えている。しかし、「毎日読む」は、年齢が高まると共に徐々に増え、60歳代がピークとなっている。

図2 年齢区分別小説やノンフィクション読書



4. 考察

OECD加盟国を中心とした結果であるが、仕事や仕事外で本を「まったく」読まないのは約2割に過ぎず、多数の人々が頻度は様々であるものの本を読んでいるといえる。毎日読書する習慣がある人々の割合も2割近くに達する。読書

習慣のある人々が、毎日読んでいるのは、小説やノンフィクションが中心である。

国別では、毎日、小説やノンフィクションを読む読者が多いのは、英国(32.6%)、アイルランド(31.5%)、デンマーク(23.9%)である。日本は、26位(10.0%)と下位であり、全く読まない比率(33.0%)も高い。ただし、仕事の本を毎日読んでいるのは9.1%で7位だった。北欧(デンマーク、フィンランド、スウェーデン)と南欧(イタリア、スペイン、ギリシャ)の国々を比較しても顕著な差は見られなかった。

読書習慣の男女差は顕著である。仕事を含めて、女性は男性よりもよく本を読む。

年齢区分では、年齢が上がるほど、本を読まなくなる傾向がみられる。しかし、60歳を超えると熱心な読者になる人々が一定数存在しており、高齢者は本を読まなくなるとは言えない。

再度、PIAAC 調査が実施される可能性があるが、もし同じ調査項目で行われるなら、成年の読書の経年変化も明らかにできよう。

引用文献

- 1) 上田修一「大人も本を読まなくなったのか：1979年と2016年の調査の比較」『三田図書館・情報学会研究大会発表論文集』2016年度、慶應義塾大学、2016-10-29, p.29-32
- 2) 日本読書学会編『読書教育の未来』ひつじ書房, 2019, 374p.
- 3) Carr, Nicholas G. 『ネット・バカ：インターネットが私たちの脳にしていること』[*The Shallows: What the Internet is doing to our Brains*] 篠儀直子訳. 青土社, 2010, 359p.
- 4) Perrin, Andrew. "Who doesn't read books in America?," <https://www.pewresearch.org/fact-tank/2018/03/23/who-doesnt-read-books-in-america/> (2019-09-19 参照)
- 5) 毎日新聞社編『読書世論調査』年刊 1949-
- 6) Ross, Catherine Sheldrick; McKechnie; Lynne; Rothbauer Paulette M. *Reading Still Matters: What the Research Reveals about Reading, Libraries, and Community*. Libraries Unlimited, 2018, 273p.
- 7) *OECD skills outlook 2013: first results from the survey of adult skills*. OECD Publishing, 2013.
- 8) 国立教育政策研究所編『成人スキルの国際比較：OECD 国際成人力調査 (PIAAC) 報告書』 明石書店, 2013, 266p.

